

平成19年8月17日

平成19年度 教師海外研修(ネパールコース)研修報告書学校名 国立高松工業高等専門学校担当教科 機械設計製図氏名 福井 智史1. 今回の研修参加に際して、特に主眼をおいた点

技術立国日本の技術者は、世界と協調する技術者として技術者倫理の修得が必要不可欠です。技術者倫理涵養のために、ネパールと日本の将来と両国間の協調を通して、日本人と日本の技術が世界にリンクしていることを考える学習につなげることを目標に参加した。そのために、特に下記の項に主眼をおいて参加した。

- ・ODA活動の実情を知る
- ・ネパールにおける日本の製品の実情を知る
- ・ネパールで活動する日本人の実情を知る
- ・ネパール国民が本当に求めているものを知る

2. 視察を通して参考になったこと／疑問に思ったこと

次のことが参考になった。

- ・公立学校の社会における役割
- ・多民族多言語、カースト制、貧困など、社会的歴史的な背景
- ・国民と国家のありかた、国家の方針
- ・上下水道の拡充事業とインフラ整備の難しさ
- ・古都バクタプルと首都の生活環境
- ・観光産業のありかた
- ・一緒に参加した他の先生たちの意見や感想

次のことを疑問に思った。

- ・持続的な発展を望める援助のありかた
- ・今後のネパール国家の将来像をネパールの国民がどう思っているのか
- ・適正技術とは

3. 教育指導への活用について

日本とネパールの相違点を比較紹介することを通して、相違点の影に隠れた共通点を考えさせ、ネパールという国を理解させる。次に、そのネパールを対象に日本が長年実施して来た国際協力活動を紹介し、国際協力のありかたを多くの視点(人道的側面、政治的判断、一般市民、技術者)から考えさせる。さらに可能であれば、全世界に対する日本のありかたを考える時間としたい。

4. 研修に関する全般的な所感／意見について

今回、主催されたJICAの方々には、このような貴重な機会（開催時期、訪問国、訪問先、通訳、その他援助）を与えていただけたことに大変感謝しております。日々の内容があまりに濃かったために、連日夜のミーティングが深夜に及ぶにも関わらず、話し足りない、聞き足りない状況でした。

今回ネパールでの訪問先に関しましては、ホームステイ先も含めまして必要十分で満足しております。

私の様に教育委員会と離れた組織で教育を行っている者としましては、同行した教員メンバーとネパールでのこと以外にも多くの情報交換を行えたことが大きな成果でした。今回得た様々な経験は授業実践だけでなく、今後の教育活動に大いに生かせるものと思っております。

5. JICA四国に対する要望・提言

もっと多くの教員が問題意識を持ってこのような研修を受けて、教員としてのポテンシャルを上げてもらえればと思います。ですので、大変だとは思いますがJICAの方々には継続的な実施を望みます。

そしてある程度浸透すれば、訪問先の国情が大変であればある程、参加を申し込む教員は限られて来るとも思いますので、タイの様に身近になって来た国と隔年で交互に、あるいは両方開催になれば良いかもしれません。

参加者選定の際には、できるだけ異なる学種、異なる年齢の教員を選ばれることを望みます。その方が議論する際に視点が多面的になり面白いと思います。

6. 今後の本研修参加者へのアドバイス

派遣前研修の時から海外研修は始まっています。配布資料や手に入る書籍はできるだけ読んでおく方が得られるものが深くなるでしょう。あとは同行するメンバー間で情報交換を進めて得意な分野でお互いに助け合いましょう。

訪問国で簡単な挨拶や自己紹介ができると現地の方々にとっても喜んでもらえます。最低限の会話の練習をして、個性ある名刺を沢山印刷して持参しましょう。

7. 各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと⇒それを何につなげるか？ その他所感
7月29日	関西空港発 バンコク着 バンコクで1泊	航空機乗り継ぎの為のバンコク1泊ではあるが、近年大きく変化していると聞いていたタイの経済状況を垣間見ることができた。ネパールでの研修を終えた後に思い返すと、ネパールとの差異が余計に際立って感じられる。 途上国が目指す発展とは、国が一体どうなることかという具体的な目標が見えて面白い。
7月30日	バンコク発 カトマンズ着 JICA事務所 ネパールの概要 ネパール語講座 JICA所長宅で夕食 ヒマラヤホテル泊	カトマンズ空港でチップを求める子供達に囲まれる洗礼に合う。 入管、警備、交通警察、全てに渡って違和感あり。とんでもない国に来たという期待とともに、一体どうなっているのだという疑問が次々に沸く。 JICA事務所でネパールの概容を聞く。 ネパール語講座で即席ネパール語会話を勉強したが、残念ながらあまり定着せず。しかし配布された文例はその後大いに役立った。 JICA所長宅での夕食では、同席したJICAメンバーの方々との情報交換で多くを得た。
7月31日	カリキュラム開発センター 教育開発センター 教材センター ヒマラヤホテル泊	各所で説明を受けたが、ネパールの政権が混迷しているのを象徴するかのように、ネパールの学校教育も混迷している様に感じた。しかし教育に対する熱意は強く、成果を挙げることに躍起になっており、このパワーをうまく統合して方向が定めれば大きな力になると思われる。 教科書を印刷している教材センターで頑張っておられた日本のシニアボランティアの方との会話が印象深い。彼の活動を通して日本の子供達と技術について議論できればと思う。
8月1日	小学校4校訪問 ヒマラヤホテル泊	前日の研修で受けた教育に対する印象と現場のギャップが私には非常に大きかった。 公立学校が、私立学校に通うことのできない子供全員を受け止める受け皿ではないという現実が痛かった。 訪問した各学校で教育用パソコンを何台か見たが、本当に必要なものを選ぶ余地無く押し寄せる文明の利器にとても違和感を覚えた。
8月2日	浄水場、公共の水場など 水供給施設の見学 ヒマラヤホテル泊	水は文化的生活を送る為のライフラインであるのに、その質が保たれていない現実を学んだ。水源の確保から最終の下水処理まで、本当にどこを挙げても問題だらけの実情をどうするのが最善なのか。正解がひとつではないこの問題を、技術を支援する立場である日本の子供達に考えさせたい。 それにしてもネパール国家の長期的な視野の欠落には驚かされる。
8月3日	非正規教育クラス ホームステイ開始 バクタプル泊	非正規教育クラスのシステムが、本当の意味での公立学校的な教育を受ける権利の受け皿であると感じた。 公用語であるネパール語が判らない子供や併設されている孤児院を見て、カーストや貧困や違民族国家の皺寄せがここに端的に現れていると感じた。 ここで感じたことを日本の子供たちにも感じて考えてもら

		<p>いたい、今の自分では力不足かもしれない。</p> <p>いよいよホームステイ。ホストの方が日本語を話せたので少し安心、少しがっかり。食事とトイレで伝統的なネパール方式の洗礼を受け、苦しみながらもそれを楽しむ。</p>
8月4日	<p>ホームステイ バクタプル市内散策 ナガルコット泊</p>	<p>ネパール族の伝統と文化を大切にしておられるご一家にお世話になった。古都バクタプルは世界遺産であり、車の流入を制限した静かな街のため、カトマンズの喧騒に疲れ気味の私には最高に快適な時間となった。</p> <p>午前には市外をゆっくりと散策。宗教色の強い街を歩き、伝統文化を大切にしている人々の生活を実感する。</p> <p>午後ローカルバスでカトマンズ盆地を見渡せるナガルコットへ向かう。途中で豪雨に見舞われ下山できなくなり、ナガルコット山上のホテルに宿泊する。</p> <p>宿泊したホテルはネパール人の旦那さんと日本人の奥さんが経営しており、奥さんの地元が私の学校から数分という偶然に啞然とする。</p>
8月5日	<p>ホームステイ 公立学校を見学 パタン散策 ヒマラヤホテル泊</p>	<p>早朝、ホテルからの視界が開けヒマラヤの連峰を見ることができて感動する。</p> <p>ローカルバスで山を降りる。このバスは付近の子供達が山の麓の学校へ通うための通学に使っているバスのために徐々に満員となる。</p> <p>ホストの方が教鞭を取っておられる公立の小学校、中学校、高校、カレッジ併設校へ見学に伺う。高校生相当の生徒と対話する機会を作って頂き、生徒の様子を知る。校長先生と対話した際に、校長先生のネパール語と私の英語で会話が成立した。話が専門的になれば言いたい事は案外通じるものだと感心した。</p> <p>ホームステイ終了後までに時間があつたので、パタンのダルバール広場と動物園へホストの方と行く。しっかり文化財を保護しようとしているバクタプルとは対照的に、パタンは猥雑な印象が非常に強かった。</p>
8月6日	<p>農家2軒見学 ヒマラヤホテル泊</p>	<p>梨や柿を栽培する農家を2軒見学した。農業というのは、野菜や果物を植えて育てて収穫するまでではなく、それを現金化するまでの流通が含まれていることを実感する。</p> <p>ネパールの将来の為には、ピンポイントで援助を受けた農家が現金収入を増やすのではない、もっと幅広く地域の農業が変わるシステムの支援が必要なのでは無いかと感じた。</p> <p>ここで感じたことは、他の技術支援でも同様なのかもしれない。得た情報を私の中で再整理し、授業に生かしたい。</p>
8月7日	<p>JICA事務所で報告会 カトマンズ発 バンコク着 バンコク発 機中泊</p>	<p>JICA事務所へ行く度に出される甘く熱いオレンジジュースを飲み納める。初日カップに口を付けて驚いたが、既においしく感じる。</p> <p>歴史と文化が違う2国間で援助を行うということの難しさと、たとえ難しくても、たった今も現場でそれを行っている熱意ある方々の行動力に敬意を覚える。</p> <p>ボランティア活動や援助だけではなく、商業活動や経済活動を通して日本とネパールが共に裕福に幸せになれる関係になれるような、そんな未来の為に子供達にネパールを紹介したいと思った。</p>

8月8日	関西空港着 香川県の自宅着	一日の終わりの情報交換ミーティングができないのがとても寂しく思う帰国ある。 授業実践に向けて補完しておきたい課題が沢山見つか り、これからまだまだ大変そうである。
------	------------------	---